

春がやってきました インフルエンザBに翻弄された3月

3月15日には浜開け、毛ガニ漁もホタテの稚貝まきも始まりました

なな なか まど

令和8年4月2日(木)
第93号
一般社団法人
猿 払
ななかまどの会
会 報



雪解けも進み、積雪量が0になりました。比例してシカがたくさん活動しています。衝突事故に注意を。



降るときは降りましたが、結果的に今シーズンは雪の量が少なかったのではないかと印象です。
鬼志別知来別線やシネシンコ線、猿払浅茅野線の村道も冬期間閉鎖が解除され車移動も随分活発になってきました。
カムイト沼をはじめとするあちこちの沼の解氷も進んできました。
それに伴ってシカの活動も活発なって、道路際に立っていると思わずブレイキを



かけてしまいます。余計な出費はのご時世避けたいものです。
3月は卒業のシーズンでした。拓心中学校の卒業生は22名でしたが、浜頓別高校への進学は0でした。自分の将来見据えて札幌圏への進学が多いようです。
4月は7日に入學式が行われます。新入学1年生27名、中学生18名が新たな学校生活をスタートさせます。充実した学校生活を送って欲しいと願うばかりです。

3月20日に 卒業と進級を祝う会 を開催しました

七年度の「卒業と進級を祝う会」を3月20日に開催しました。受験生の合格発表や高等支援学校三名の卒業式後に設定したために例年より開催が遅くなりました。また、いつもなら児童・生徒みんなで体験活動をしてからの祝う会ですが、インフルエンザの蔓延



や会員の人数が多くなったため式と会食のみとなりました。案の定インフルエンザの影響で欠席された児童・生徒や保護者もあり、ちょっと寂しい会となりました。来賓として松浦教育長にお越し頂き、子ども達に激励のご挨拶を頂きました。子ども達も少し緊張気味のようにでしたが、卒業生一人一人の決意の言葉も、成長を感じる気持ちの伝わる挨拶でした。

新高校生は稚内へ通学、支援学校卒業生は、一人は



村内の福祉施設へ採用、もう一人は稚内市の事業所へ通勤、もう一人は未定となっております。いずれにせよ社会参加の第1歩を踏み出します。保護者の皆様にはまだまだ心配かもしれませんが、たくさん心配してください。そして適切なアドバイスをしてあげてください。困ったことがあったら「ななかまど」にお立ち寄りください。

今年度も祝う会の横断幕を塾生に書いてもらいました。今回は5年生と2年生の二人の合作です。

習字教室をはじめ1年3ヶ月が経ち、子ども達も順調に力をつけています。筆を持つことに少しずつ抵抗感がなくなってきました。



修了式が終わった日、いつもより多くの子ども達が集まりました。

宿題もなく雰囲気はどこかほんわかしていました。女の子達はカラフルなミニゴムでミサンガを作り出しました。そのうち男の子の髪の毛を飾り始めました。男の子も優しく相手になってました。できた作品が、この年代だからできるほほえましい一コマとなりました。

放課後塾での一コマ

一般社団法人猿払ななかまどの会の十二期が終了しました。

12年間のご協力に感謝しますと共にこれからもご支援ご協力をお願い致します。